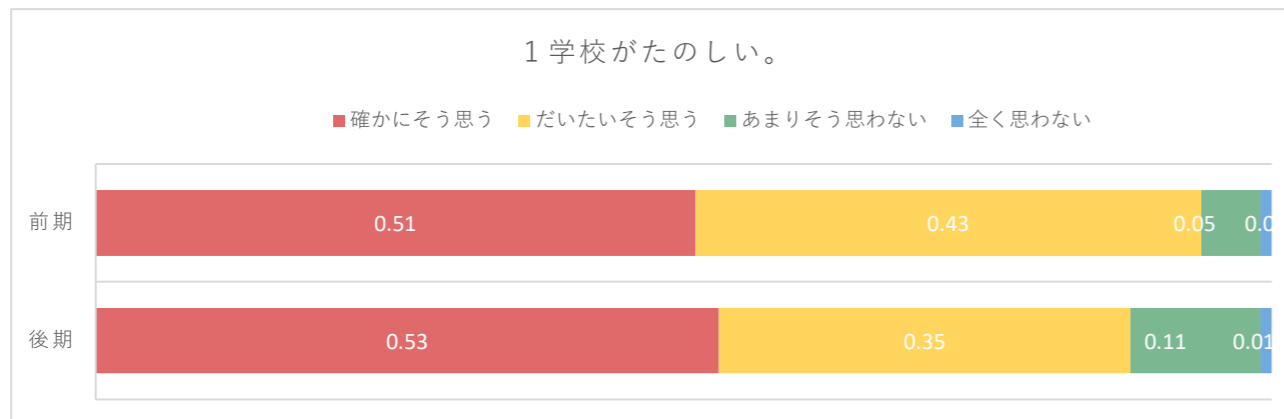


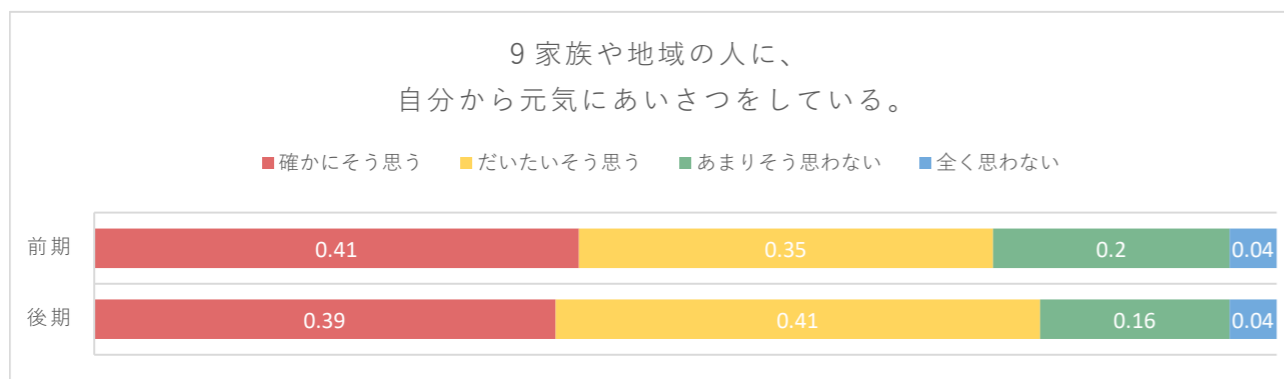
## 令和6年度 牧之原市立坂部小学校 学校評価の結果報告と考察

本年度も前期（6月）と後期（11月）の2回、児童、保護者、教職員にアンケート調査を行いました。アンケート結果をもとに考察したことを、学校運営協議会で委員の皆様へ報告し、意見をいただきました。紙面の都合上、一部ですが紹介します。

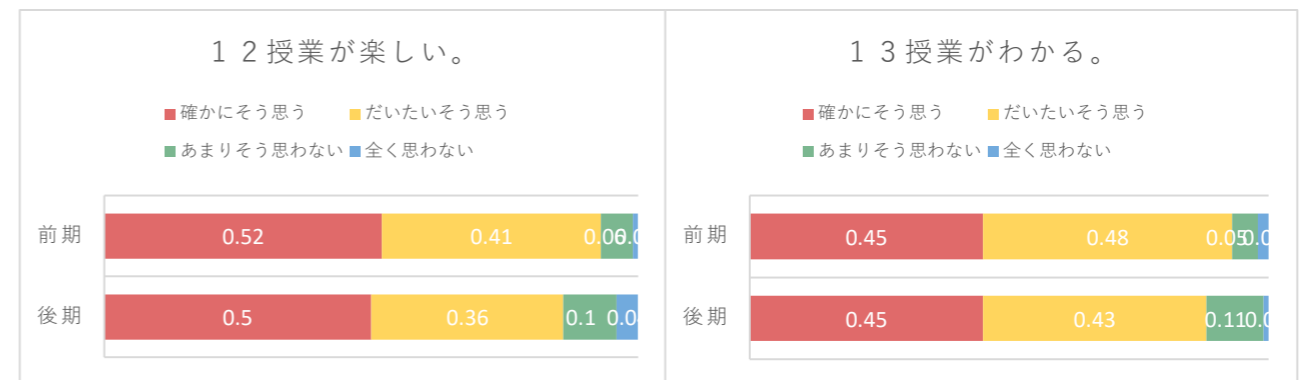
なお、過去3年間の調査を分析した結果、本校には「前期より後期の方が肯定的な数値が減少する傾向にある」ことが分かりました。児童の成長への願い、学校への期待はもとより、『熱心・勤勉・質朴』を大切にする坂部のみなさんの気質が表れていることも学校運営協議会委員の皆様と確認したところです。



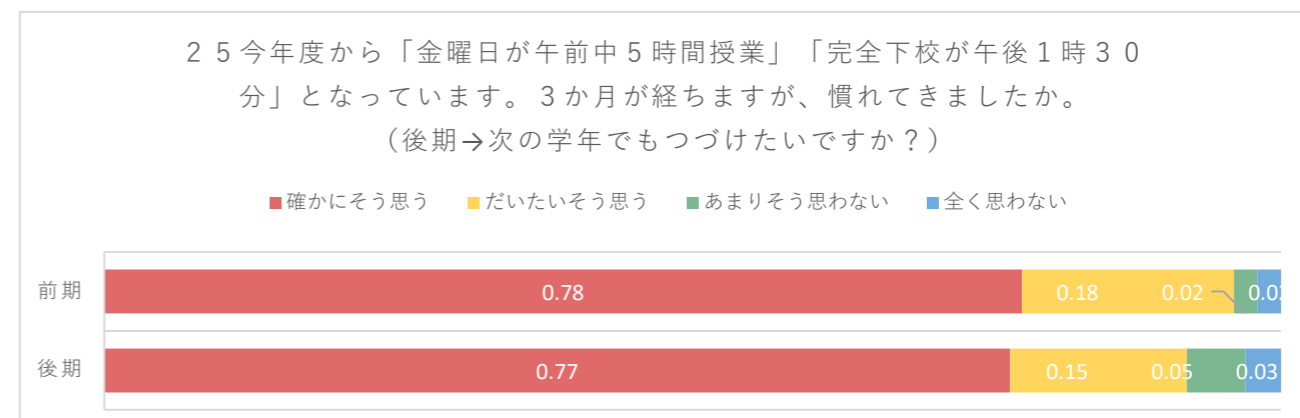
「学校が楽しい（確かにそう思う・だいたいそう思う）」と回答する児童は91%（年間）である。『自ら関わり、互いの「よさ」や「違い」を認め合える力を育てる』という思いをもち、全職員が全校児童の担任であるという小規模校のよさを発揮した取組や他機関との連携を継続した成果だと捉えている。一方で、熱中症への対応により、近年、行事や活動が秋以降に集中する傾向がある。アンケートを行った11月は修学旅行（6年）、仲よし学校（全校）、自然体験教室（5年）、体験活動や社会科見学（各学年）、榛原中校区特別支援交流会準備（かがやき）など児童が創意工夫を発揮する行事や活動が重なったことで、負担に感じた児童の思いが調査に影響したのではないかと考察している。



「家族や地域の人に自分から元気にあいさつをしている（確かにそう思う・だいたいそう思う）」と回答した児童は後期80%であり、前期比4ポイント増加した。本校が大切にしている“さかべしぐさ”の取組のみならず、PTA重点実践事項としての取組やコミュニティスクールの取組がよりよさかになっていることとの相乗効果であると実感している。インフルエンザ等感染症蔓延防止対策により活動が実施しにくい時季もあるが、ふるさと坂部の「人」「こと」「もの」とふれあう学びを今後も継続することが、児童自らあいさつを実践する機会としても大切であると考察している。



「授業が楽しい」、「授業がわかる」に後期「確かにそう思う・だいたいそう思う」と回答した子供はそれぞれ86%（前期93%昨年度後期92%）、88%（前期93%、昨年度後期90%）である。本校は本年度、市の掲げる資質・能力から「生きる力の基礎・基本」「基礎的な知識・技能」を窓口として捉え、日々の教育活動を展開してきた。「基礎的な知識・技能」の育成は昨年度より継続して校内研修でも取り組んできた。その成果は全国学力学習状況調査や県定着度調査に数値として表れており、日々授業をしている教職員も実感しているところである。今後は、この成果を児童が実感できるような授業づくりを教職員が心がけていくことや「テストではかれる学力」と「はかれない学力」を児童が発揮していることを教職員はじめ、児童に関わる大人が直接、児童に伝えていくことも「楽しい」「わかる」につながるのではないかと考察している。



昨年度末に試行し、本年度導入した「ニカニカ日課（金曜午前5時間、13時30分下校）」を継続したいと肯定的な回答をした児童は90%（年間）であった。児童が午前5時間のリズムをつかみ、家庭での時間も確保できることを好意的に捉えているのだと考察し、次年度も継続していく。保護者の皆様には文部科学大臣メッセージや県教育委員会教育長メッセージに基づき、本校のニカニカ日課導入をはじめ様々な改革の趣旨を御理解いただいたり、対応をしていただいたりしている。先日の登校時刻を10分遅らせることについての対応も「子供にとってよいことであるならば」とPTA運営委員の皆様が前向きな思いで応援してくださいました。学校への高い信頼を持続しつつも、時代にあった坂部小であるよう関係の皆様と知恵を絞っていきたい。

学校運営協議会委員の皆様には年間3回の授業参観と協議、入学式や仲よし学校等への御出席を通して学校運営に協力いただきました。学校評価アンケートの数値のみならず、地域にあふれる温かい児童の表れや授業参観の様子、委員の皆様のお立場で坂部小に期待されていることなどについて毎回、思いや御意見をちょうだいしております。委員の皆様は「坂部の児童の良いあらわれ」「地域とつながる坂部小の取組」について価値付けてくださったり、より前進するよう応援して下さっています。

本年度も保護者の皆様には本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、ありがとうございました。